

自然環境調査結果の概要について

出雲市では、市内の自然環境の状況を把握し、各種の施策に活用するため、野生生物を対象とした調査を継続的に実施しています。

平成 30 年度は、出雲市の北側に位置する島根半島（平田・出雲・大社地域）の河川について、生息する水生動物と水生植物の調査を行いました。その調査結果の概要を報告します。

○調査の対象

この調査では、市内の生物多様性を知るため、確認された生物をできるだけ記録するようにしています。

この中には、レッドデータブック（注 1）の掲載種のほか、環境省の生態系被害防止外来種リストに掲載されている外来生物（注 2）が含まれています。



市内の調査河川概略

○調査地域

市内の河川から 25 地点を選び、調査を行いました。日本海に流入する河川と宍道湖に流入する河川が含まれています。

○確認された生物

平成 30 年度の調査で記録された生物の全種数は、102 種です。その内訳は、爬虫類 2 種、両生類 4 種、魚類 7 種、巻貝 4 種、ヒル類 1 種、ウズムシ類（プラナリアの仲間）1 種、甲殻類 13 種、昆虫類 66 種、水草 4 種です。

○水生動物

河川で見られた希少種としては、島根県版レッドデータブックや環境省のレッドデータブックに掲載されている甲殻類 5 種、昆虫類 2 種、魚類 2 種、両生類 2 種、爬虫類 1 種が確認されています（別表 1 参照）。この中でニホンイシガ

メは、河川やため池などに生息する在来種のカメです。外来種のカメとの競合によって、生息地が減少していることが知られています。

外来生物では、サカマキガイ、アメリカザリガニが確認されています。アメリカザリガニは、環境省の総合対策外来種に指定され、特に生態系に悪い影響を与えることが心配されている種です。今回の調査で、出雲市から新たに確認される外来生物は見つかりませんでした



調査で確認されたイシガメ

○水生植物

確認された水草は 4 種でした。希少種は確認されず、外来種のオオカナダモが確認されました。環境省の総合対策外来種に指定され、特に生態系に悪い影響を与えることが心配されている種です。

○出雲市の島根半島の河川生物とその特徴

島根半島は、出雲平野と比べて、流れが速く、水温が低い川が多いことが特徴です。そのため、溪流環境に生息する生物が多い一方で、水草が生えるような、流れの緩い場所は限られます。平成 16 年度から 22 年度に、同じ地域の河川を調査しています。調査結果を比べてみると、多く見られる生物については、大きな変化はありませんでした。具体的には、カワニナ、サワガニ、モクズガニ、スジエビ、シマアメンボ、ヘビトンボなどの生物です。また、外来生物も少なく、全体として良好な自然環境が保たれていると考えられます。

(注 1) レッドデータブックは、絶滅のおそれのある野生動植物をまとめた資料で、環境省や各県が発行したものがありません。島根県では、平成 25 年と 26 年に改訂版のレッドデータブックが発行されています。

(注 2) 正式名称は、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」。侵略性が高く、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそ

れがあるものから選定した外来種のリストです。

(別表1)

水生動物

甲殻類（5種）	ヒラテテナガエビ トゲナシヌマエビ タイワンヒライソモドキ	ヤマトヌマエビ ミナミヌマエビ
昆虫類（2種）	クビボソコガシラミズムシ	ヨコミゾドロムシ
魚類（2種）	ミナミメダカ	ドジョウ
両生類（2種）	タゴガエル	トノサマガエル
爬虫類（1種）	ニホンイシガメ	